「実務実習を受ける前に行われる共用試験はどうなるのだ ろう」「4年制コースに入学したものの、薬剤師国家試験を受 けることができるのだろうか」「新設薬科大学が増加し、薬剤 師過剰時代がやってくるのではないか | ――最近の薬学生が よく口にする悩みだ。この3つの悩みに対して、9月下旬に 開かれた第70回九州山口薬学大会で、九州地区薬系大学側か ら、国試受験は4年制の場合に最短で7年間必要――など、 現状での方向性が示された。



連れの姿も会場には薬学生や高校生の親子

## 九州山口薬学大会で薬系「オープンキャンパス」

大会は熊本県薬剤師会会長の佐伯順一氏を 実行委員長に9月23、24の両日、熊本市民会 館で開かれた。大会では、初めて薬学生や受 験生など、一般市民も交えた「九州地区薬系 大学合同オープンキャンパス一薬学部への誘 い」が行われ、参加者との質疑が行われた。 この中で入江徹美氏(熊本大学薬剤情報分析 学教授) による基調講演「新しい薬学教育の 目指すところ」に続き、質疑が行われた。共 用試験のあり方、4年制学生が薬剤師免許を 取得するための課題、薬剤師過剰時代の対応 策など、学生に関心が高い話題が取り上げら れた。

入江氏は講演で、新しい薬学教育について 「知識や技能をバランスよく教育することを 目指している。例えば、今話題の熊本の赤ち ゃんポストをどう考えるかなど、全学年を通

して『生と死』 など、ヒュー マニズムにつ いて学ぶこと になってい る」と、6年 制カリキュラ ムの特徴を説 明。さらに、 従来縦割りだ



入江氏

った基礎系領域についても、「化学・物理・ 生物を系統的に学習することも大きな特徴。 薬学と社会の関わりをしっかりと学んでいた だきたい」と訴えた。また、薬学の使命は 「創薬から服薬指導まで、医薬品を通して医 療現場から創薬への情報フィードバックをう まく回転させることが重要」と述べた。

## 薬学生の日頃の悩みや疑問に回答

参加者を交えたディスカッションでは、コ ンピュータを用いて知識を問うCBTと、実 際の実技・態度を問うOSCEからなる共用試

第70回 九州山口薬学大会

合同オープンキャンパス

験がテーマに挙げられた。特に、薬学生が不 安を抱いているのがOSCEだ。各大学でも、 2010年の本格実施に備えてトライアルを行

> い、必要な施設・設備の確認、評価 者や標準模擬患者など人材養成を急 いでいるところだ。ただ、評価者に ついては、個々の評価者による「評 価のバラツキ」が不安視されており、 現在、学内での評価者養成と共に、 外部評価者に対する"標準的な評価 方法"への理解が求められている。

またOSCEの再試制度については、 福岡大学、長崎国際大学などの各校 代表者も「(国試とは異なり) 医療現 場で実習してもよいかを問う試験な ので、再試制度も含め門戸を広いも

のにしてほしい」と強く要望した。

一方、九州地区では私立大学は全て6年制 だが、九州大学、長崎大学、熊本大 学では4年制を併設している。熊本 大の代表者によると、昨年の夏休み 前に新入生を対象に行ったアンケー ト調査の結果、「4年制の学生でも 薬剤師免許を取ることが可能なの か」という悩みが多かったという。 だが、同大では「4年制の学生が薬 剤師国家試験を目指すのは、現時点 では困難である」との見解を示して

> これに対し九大からは、「修士課 程の期間は困難だが、博士課程にお いては薬剤師国家試験を受験するた めの科目を履修できるようにする」 方針が示された。長崎大も「場合に よっては、修士過程を終了した後に 6年制の学生が履修する科目を習得 して薬剤師国家試験に臨めるように したい」との姿勢を示した。

度 九大、長崎大では、4年制学生に 対し薬剤師国試への配慮をする方向 にあるが、いずれも4年制学生が国 試受験資格を得るには最短でも7年を要する ことになる。

また、30年に薬剤師数は40万人を突破する とされ、薬剤師過剰が危惧されている。薬学 生の中にも将来を懸念する声が聞かれるが、 九州山口実務実習調整機関運営委員長の神田 晴生氏は「本来、薬剤師がやらねばならない 業務をやれていない領域が未だにたくさんあ る。今後、国民の支持を得つつ、その職域を 拡大していきたい。薬剤師の専門性が高まれ ば、職域は必ず拡大できる」とした。





## わたしたちと一緒に 見つけましょう、進むべき道を。

たこは 6000,000 円木口がお 円とらたいのが が 入り 6 たケーション、将来の自分。そのどれにでも共通するの がすることの重要性。クラフトにはそれらをバック できる体制と数多くの選択肢があります。



TEL.03-3265-8032 FAX.03-3222-5228 人事部採用担当 龟屋、松井 URL: http://www.kraft-net.co.jp e-mail: jinji@kraft-net.co.jp